

第2回 あいりん地域のまちづくり検討会議におけるアンケート結果等の集約

1. 性別		2. 年齢						3. お住まい			4. ご意見		5. 鈴木顧問からの回答					
性別	70歳以上	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	19歳以下	未記入	西成区	大阪市内（西成区外）	大阪府（大阪市を除く）	大阪府外	未記入	今回議論された内容への「ご意見」	今回議論されなかった内容への「ご意見」			
																	1 男性	
2 女性		1								1				グループでの話し合いが不明確、傍聴席の声が大きく具体性がないのでなお意味不明 当事者意識が感じれなく、傍聴者は怒る。また、グループ意見は地区民が主体になるのに、ある程度の骨格を求める部分もある。グループ参加者の能力不足を感じる			貴重なご意見をありがとうございます。運営方法については、現在のやり方がベストとは必ずしも思っておらず、今後も、見直しをしていきたいと考えております。	
3 男性				1								1		会場でのルール、傍聴心得を決めても、ルールを守らない人をそのままにしている会議が混乱するだけです			貴重なご意見をありがとうございます。運営方法については、現在のやり方がベストとは必ずしも思っておらず、見直しをしてゆきたいと考えております。	
4 女性		1										1	西成の内容がわからない。それなのに住宅・医・C(センター)の移転が論じられているのはおかしい その土地を資本主義者へ渡して、貧乏人を追い出すというだけではないのか。今住んでいる人、医療利用者、そして多くのホームレスの人たちへの配慮が全くないのが白々しい。この時間にも道端で寝ている人が居る。日本の中で釜ヶ崎の存在は地域で生きていけない人達への救いの場である。今までのように人々が最低の人生でも共同意識を持って生きていけるこの釜ヶ崎を大切にしたい。きれいなまちとか住みよい町とかのキレイことは必要なし。結核病院はこの場にあるべしだと思う。劣悪な病院に放り込むな。安心してゆっくり直せるような、そしてDOTSできるような病院が欲しい	WSというのが単なる機嫌取りとしかおもえない。行政の押しつけばかりが感じられる。進行に問題あり ヤジが飛ぶのが当たり前のことなので、その人たちだけで応じるのは他の人たちもヤジとして叫びたい ことがあるとにかく押しつけはイヤだ！		議論の中身を良く見ていただくと分かりますが、社医セン利用者の生活保護受給者の方々、ホームレスの方々への施策についても議論が行われており、決して軽んじているわけではないと思います。また、西成特区の既に動いている施策の中にも、それらの方々に対する施策はきちんと行われています。マスコミの拙い報道により「センター移転」という言葉が独り歩きしているようですが、ここで行われている議論は、例えば、西成労働福祉センターや職安については、現地から移転せず、今の場所に規模を縮小して継続し続けるという選択肢は含まれております。西成特区の方向性を定めた有識者座談会報告書でも、耐震性に問題のある市営住宅と社医センを近隣地域に移転した上で、労働関係の施設は現地で建て替えという「部分移転案」を提案しています。また、それを元にした市長の方針も「あいりん総合センターの移転」と言っているわけで、労働関係の施設は移さないという部分移転案はそこに含まれているという意味です。		

第2回 あいりん地域のまちづくり検討会議におけるアンケート結果等の集約

5	男性																		市営住宅に住んでいるものとして、どこに移転するのが一番の問題です。萩ノ茶屋小学校跡地でないのならどこなのかはっきりしてもらいたい。高齢者の方が多くなってきているので、遠い場所への移転はできません。まず、移転ありきは反対です。		市営住宅の住民の方々が不安でいることは重々承知しており、申し訳なく思っております。市営住宅の皆さんが主張している①全員一緒に移転したい、②医療や介護の問題もあるので、遠くには移転したくないという意見は届いておりますし、委員の皆さんの中でも議論の俎上に上がっています。近隣の候補地はいくつかあり得ると思いますが、いずれにせよ、このまちづくり会議の中で、地域の方々が一緒に考えて、どこに配置すべきかが議論されることとなります。 もちろん、移転しないという選択もあり得るとは思います。その場合、建て替えまでの間、住宅の皆さんが仮移転することになります。委員の皆さんの議論でも、住宅の皆さんの意見が最優先だという意見が多く出されていますから、住宅の皆さんの統一したご意見であれば、それは重要視されると思います。		
6	男性																		子どもの意見も取り入れられたら。。。 (時間的な問題、場の雰囲気的にも難しいと思いますが)	貴重な意見をありがとうございます。現在、こどもの意見を代弁してもらう意図で、こどもの里の荘保委員にお入りいただいております。今後、必要性を検討し、教育関係の委員の新たな参加について検討させていただきます。まずは、その様子を見まして、それでも子どもの意見があまり反映されていないということであれば、新たな方法を検討したいと思います。			
7	男性																		前回も質問したが鈴木さんから、まともな回答がなかった	「利権関係の構図についての説明」	「利権関係の構図」とは具体的にどのようなことを指すのでしょうか。詳しくご説明いただければ幸いです。		
8	男性																		まとめの時は気に入った意見しか取り上げない(まちがい)すべての意見は、直接発言させるべきである		会議の時間が限られているため、会議の時間内で紹介できるのは主要な意見のみです。ただ、気に入った意見しか取り上げないということではなく、中立の立場のファシリテーターが多くの方々からご意見のあったものをピックアップしています。ただし、全ての意見は、きちんと次の回に整理したものを委員にはお配りしていますし、全ての意見が議論の俎上に上がっていますので、ご理解を賜われればと思います。		
9	女性																						
10	男性																		「あいりん」地区に限定することなく、JR新今宮、地下鉄、花園町駅、JR天王寺までの大広域のまちづくりの構想を立ててみるべきではないでしょうかと思います。大阪府府舎。大阪市役所を西成の地につくり総合庁舎、市役所として病院労働センター学校、大学、アミューズメント施設も入る建物、ゾーンにする。 市大広域まちづくり(地域づくり)をしていければと思います。 また、あいりん地区以外の西成区民大阪市民はどのように考え行動しようとしているのか、同時進行で必要とおもいます。		大変貴重な意見をありがとうございます。時間と回数に限りがあるため、とりあえず、最優先事項として、あいりん総合センターの建て替えとその周辺のまちづくりについて、大方針を得るべく、現在議論をしておりますが、最終的にはもっと大きなくくりでの議論が必要だと思っております。次のステージでの議論になるかと思えます。		
11																						・行政の方が多く出席されているのに、ほとんど発言されていない。行政の方も発言してください。 ・傍聴要領にそって積極的に対処すべき。途中から黙認状態ではないか。 ・傍聴者が公然で会議中にどら配っている。それを黙認している区役所員が大勢いることは大問題である。「傍聴心得」に該当する。 (2、傍聴者の遵守事項の(5)に該当する)	行政の立場は、ワークショップから出た質問等に答えるというもので、直接、全体の場で発言することは考えていません。地域の方々の議論がもう少し進んだ段階で、それを具体像にするときに、行政がお役に立つことになると思います。会議中にどらが配られたことは大変残念に思っております。気づいた時には、有識者の座席に配布の方が来ており、私たちの制止にも関わらず、その方は配布を続けました。会場にも勝手に配布を行ったことは私は後で知りました。お詫びをしたいと思います。次回からは、傍聴要領に沿っての積極的対処についても普及したいと思います。

第2回 あいりん地域のまちづくり検討会議におけるアンケート結果等の集約

12	男性																			<p>国の労働対策をどう引き出していくのか、あいりんセンターの運営問題の中で考えてほしい</p> <p>生活困窮者自立支援法、生活保護法、ハローワーク、この3つではこぼれ落ちる労働者やホームレス状態の方への就労対策はやはり国も動いていかないと進まない。そのためにセンター運営問題は重要な試金石だと思う。稚拙ならず丁寧に議論を積み重ねて欲しい。場所や建物の問題だけではない。</p>	<p>ホームレス状態の生活であっても、生活保護を受けずに働いて自活したいと思う人々が多数あいりん地域にいる。現状、生活保護法の給付の仕組みや扶養親族への照会等の仕組みを変えていくことに取り掛かるべき。生活保護法の中にあっても、仕事をする事による給付を求める人には、扶養照会や給付の仕組みを変えていかなければ結局、ホームレスの状態は改善していかずまちづくりも根本的に進むことはないと思います。</p>	<p>このまちづくり検討会議はあくまでまちづくりに関することを議論することが目的であり、基本的に、労働行政の話を所管する国、府に申し送りしたいと思っています。生活保護行政に関することは、ご意見として承りました。</p>
13																				<p>これから決めます。何も決まっていなくての念押しですが、「移転」は決定ということでスタート。</p> <p>「決めたこと」に公開して合意を得た(12月末)というシナリオにしか見えません。違いますか？</p> <p>何故移転からスタートなのですか？お答えください。</p>		<p>地域の方々の意見が最優先で、市長の方針が決定されるということに変更はありません。マスコミの拙い報道により「センター移転」という言葉が独り歩きしているようですが、ここで行われている議論は、例えば、西成労働福祉センターや職安については、現地から移転をせず、今の場所に規模を縮小して継続続けるという選択肢は含まれております。西成特区の方向性を定めた有識者座談会報告書でも、耐震性に問題のある市営住宅と社医センを近隣地域に移転した上で、労働関係の施設は現地で建て替えという「部分移転案」を提案しています。また、それを元にした市長の方針も「あいりん総合センターの移転」と言っているわけで、労働関係の施設は移さないという部分移転案はそこに含まれているという理解です。住宅や病院の近隣地域への移転は、耐震性の問題が深刻であることが理由です。</p>
14	男性																			<p>センター、社医セン、市営住宅、職安のそれぞれの現状を明示して、今の地域ニーズに合わせる案を一つ一つ丁寧に考えていく。社医センターは縮小ではなく、結核、精神について特区でもよいのでは職安、労働センターを合体することのメリット、デメリット</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報(議論された内容)をまちなにあった形で公開すべき。公開予定は？ ・子どもを呼び込むための具体的な方向性は？ ・今回のテーマを代表者だけでなく(委員だけでなく)みんなで議論すべき ・いつでも誰でも利用できる施設を作るべき 子ども(児童館的なもの)、生活保護受給者(65歳以上だけでなく) 	<p>貴重なご意見をありがとうございます。ぜひ、そのような方向で議論をしたいと思っています。社医センターについて、結核・精神の分野は機能拡大することも、議論の俎上に上がってきております。情報の公開についても、まちの方々にきちんと届くように方法を検討しております。</p>
15	男性																			<p>露店があるおかげで私のような日雇いは安い食料が買えて餓死していません。最近リヤカーでお菓子を売っている女性を見かけるようになった。露店も合法的に営業できるような方策を考えるべきである。</p> <p>生活保護受給者よりも少ない年収なのに家賃さえ自腹である。ひと花PJでは私よりも高収入の生活保護受給者を優遇している。生活保護受給者より低収入の日雇いにも何らかの手当てをすべきでないか</p> <p>大阪社会医療センター付属内科診療所が廃止され不便に感じている。新しい社会医療センターができる時は現在できない科を新設してほしい。</p>		<p>大変貴重なご意見をありがとうございます。露店については、違法にならない方法で営業してもらいたいと思っています。社医センの機能拡大(例えば、結核や精神など)についても、今後の議論の俎上に載せてゆきたいと思っています。</p>
16	男性																			<p>釜ヶ崎の町が好きで37年間関わらせてもらっています。釜ヶ崎は日雇い労働者のまちであり、労働者の意見を聞く中のまちづくりが大事だと思います。</p>		<p>貴重なご意見をありがとうございます。労働者の方のご意見をお聞きするために、代表の方々に委員に就任いただいております。その他の方法については、ご意見を踏まえ、今後、検討させていただきます。</p>
17	女性																			<p>とても興味深かったです。前回よりは議論が深まってきたと思います。傍聴の意見を聞くのもチャレンジだと思いますが、民主主義という感じでそれが西成から始まるのはすごいと思います。</p>		<p>ご評価をいただき、ありがとうございます。引き続き、見守っていただければ幸いです。</p>

第2回 あいりん地域のまちづくり検討会議におけるアンケート結果等の集約

18	男性	1							あいりん総合センターの整備について ③部分移転がベターであると思われる。住宅・医療センターを移転センター耐震工事をしてあと30年～40年もたしたほうが良いと思う		貴重なご意見をありがとうございます。それも一つの選択肢だと思 いますし、今後、議論が行われることになろうかと思 います。
19	男性	1						1	各グループでのお話を聞けば、住宅、医療センター、福祉セン ターの移転、縮小など考えられないと確信を持ちました。私は萩之 茶屋地域に住んでいませんが、萩小に勤務し子供たちを育ててき ました ので萩小の地域の人と思って発言しています。前回はまだ有識者 の視点が出されましたが、今回意見としても出ていません。した がって若者子どものことが話せる委員を選定してください。	本気の見解として現在のセンターの拡充こそすれ、縮小、移転の 意見は出されていません。 公民なんとかのピラをなぜ配布させたのか？それなら誰もがピラを 持ってきてよいのか？これについては回答求めます。	貴重な意見をありがとうございます。現在、こどもの意見を代弁し てもらう意図で、こどもの里の荘保委員にお入りいただいでおりま す。今後、必要性を検討し、教育関係の委員の新たな参加につ いて検討させていただきます。会議中にピラが配られたことは大変 残念に思っております。気づいた時には、有識者の座席に配布者 の方が来ており、私たちの制止にも関わらず、その方は配布を続 けました。会場にも勝手に配布を行ったことは私は後で知りました。 お詫びをしたいと思います。次回からは、このようなことが起こら ないように努めたいと思 います。
20	男性	1						1	「結核センター」事業が主体化しているというお話でしたが、中身が 見えない。地区の中に「……センター」ができる方向なのか		結核対策の事業については、現在、有識者座談会報告書が提案 したワンストップセンターをめざして、徐々に施策が進んでいると ころです。ただ、地域内に結核の入院施設を造るかどうかという点 については、現在行われているまちづくり検討会議や、この後の次の 具体的な議論のステージで、検討を重ねてゆきたいと思 っております。
21	男性	1						1	西成釜ヶ崎のまちづくりは最貧困課題、およそ、全国の都市、街が かかえている、課題、問題を全て網羅しており、集中的にあらわれ ている。あるいは政治的・経済的に意図的に集中させられてきた 地域であると思う。この街の課題解決が西成発の日本初の試み、 モデルになる。その意味から橋下大阪市長松井大阪府知事、国 関係者他代表者のこの検討会議へ毎回の参加出席が必要ではな いのか。たとえ区民や住民から厳しく、文句を言われ、困難があ らうと、それが住民、関係者の意見、提案を聞く活かす実行する手 立てとなるということになります 労働センターの整理。規模縮小ではなく、むしろこの際日本最普 最新の施設を日雇い労働に限定せず労働雇用企業全般の総合 機能を持つ労働センターにすべし。あわせて駅前という強みを活 用し、多機能で区民、市民交流的で多機能のある施設にすべき。 教育(乳幼児から大学、大学院、社会人大学研究センター)福祉、 まちづくり、銀行、遊園地、映画館、ファッション、飲食店、デ ートスポットがあってもよい。そしてなによりも、住民、労働者、こども達、 人々が「住んでよかった、この地で生きてよかった」「働いてよ かった」「楽しい、うれしい」と感じ、実現できるセンター的 機能＝地球のまちづくり。検討会場がその実現、課題解決になる ものにも創りあげていきたい。 マンガ・イラスト入りの資料はわかりやすいが、さらにもっと踏み込 んだ資料にしてください さらにボトムアップであり「言いつばなし、聞きつばなし」でないし、 検討会場のあり方・持ち方を創りあげていきたいとおもいます。		貴重なご意見をありがとうございます。市長、知事にはそのような ご意見があったことはお伝えしたいと思います。今回の検討会議で は、あいりん総合センターの建て替えとその周辺のまちづくり、配 置問題が最大のテーマとなっておりますため、なかなか全ての議 論を出しつくすことは難しい状況ですが、ぜひ、この後に行われる 具体的な論の次のステージで、いろいろなご意見を反映できればと 思っております。今後も、建設的なご意見をいただけますように、 お願いいたします。

第2回 あいりん地域のまちづくり検討会議におけるアンケート結果等の集約

22	男性 質問状								1	1										<p>第一回の検討会議の最後に傍聴席から「結核センター」に関する質問をさせて頂いた者です。 西成特区構想の報告書に明記されていた「入院機能を備えた結核センターを地域内に作る」ということが抜け落ちているのではないかと、という質問でした。対して鈴木氏は「抜け落ちているのではなく、すでに事業計画に乗って進んでいるので議題にしていない」といった内容の回答だったと記憶しています。 その時は自分の不勉強を恥じると同時に、すでに進んでいるのなら、と安心も致しました。 しかし、その後検討会議に加わっている4名のメンバーにその件を確認しました。すると、一人ひとりのニュアンスは違うものの、いずれも、結核センター自体の事業計画は進んでいるが、地域内に結核の入院病床を作る事にはなっていないのでは、とのことでした。さらに、入院病床は淀川の十三病院になるのではないかと、との話も聞きました。前回の私の質問の仕方が悪かったのかもしれませんが、再度質問をし直させていただきます。 ①「既に進んでいると言われている事業計画の中には、この地域内に結核患者用の入院病床を作ることも含まれている、と理解してよろしいのでしょうか？」 また、結核病床のことは移転後の社会医療センターの総病床数との兼ね合いで決まるのではないかと、との意見も聞きました。もし本当にそうなのであれば本末転倒ではないかと考えます。 ②「報告書と異なる施策を行政サイドが進めているのであれば再度議題として検討する責任が、ボトムアップ型を自認するまちづくり検討会議にはあると考えますが、いかがでしょうか？」 以上、2点に関してどのようなかたちでも構いませんので回答をお願いします。</p>	<p>貴重なご意見をありがとうございます。確かに、私に誤解があったようです。現在、有識者座談会報告書が提案した結核ワンストップセンターを目指すべく、事業化が進んでいるのは事実です。ただ、現在までのところ、「入院機能を備えた結核センターを地域内に作る」というところまでは行っておりません。行政の仕事は、何事も一朝一夕にというわけにはいきませんし、ご案内のように、社医センの今後とも関わる場所なので、社医センのあり方とともに協議しなければならぬ課題だと考えているからです。病床数との兼ね合いでということではありませんが、ワンストップセンターと社医センをどう連携してゆくかという点は、交通整理というか協議しておくかなければならないと思います。決して、施策から、地域内の入院施設が落ちたということではありません。私自身の個人的な意見としては、結核の入院施設は何らかの形で地域内に確保されるべきだと思いますし、最終的に結核センターのようなものが実現されることを望んでおります。この問題は、今回のまちづくり検討会議(今回は、あいりん総合センターの建て替えとその周辺のまちづくり、配置問題で大きな方針を得ることが目的)というよりは、西成特区構想全体の事業の継続性、チェックの話でありますから、まちづくり検討会議の後の行われる次の具体的テーマのステージ、及び各エリアマネジメント協議会で、具体的に取上げてゆきたいと思えます。現在、進んでいる施策の内容については、個別にご説明をさせていただいた通りです。</p>
23									1	1										<p>2014年9月22日より公開で行われている、「あいりん地域のまちづくり検討会議」について、以下の2点を申し入れる。 ①2014年9月22日に行われた会議の際の議場の「不規則」発言の多くは、「あいりん総合センター移転ありき」という前提で進められている話し合いのやり方に対する傍聴者の不信にその根本原因がある。 まずは、「あいりん総合センター移転ありき」という前提を市長自ら撤回し、その上で話し合いを進めていくこと。 ②「あいりん地域のまちづくり」という全体的なテーマで話し合いを行う以上、「検討会議委員」のみならず、傍聴しやすいように会場を設定する(ワイド・スクリーンの設置)等して、傍聴者の発言、意見もできるだけ保障すること。又、退場等の措置によって、傍聴者を話し合いから排除しないこと</p>	<p>まず、有識者委員に配ってほしいと言うご依頼については、後日、きちんと対応するつもりでございました(その場で配ることは規則違反です)。それにもかかわらず、我々に無断で、勝手に有識者席に侵入して、我々が制止したにもかかわらずペラを配り、会場にも勝手な配布を行ったことに、嚴重に抗議します。傍聴要領でもこのような行為は禁じておりますので、これは重大な規則違反です。今後、このような行為は絶対に認めずつもりはありません。その上で、①の「あいりん総合センター移転ありき」という前提云々について、お答えしたいと思います。 まず、第一に、これは市長の方針として示したとすることとせず、今回のまちづくり検討会議の議論の前提になってはいけません。また、市長方針についても「地域の方々の意見を最優先する」という方針こそが最優先されるべきもので、地域の方々の多くが一致して移転を望まないということであれば、それはそれで市長に報告する内容になると思えます。また、マスコミの拙い報道により「センター移転」という言葉が独り歩きしているようですが、ここで行われている議論は、例えば、西成労働福祉センターや職安については、現地から移転せず、今の場所に規模を縮小して継続し続けるという選択肢は含まれております。西成特区の方向性を定めた有識者座談会報告書でも、耐震性に問題のある市営住宅と社医センを近隣地域に移転した上で、労働関係の施設は現地で縮小の上、建て替えという「部分移転案」を提案しています。また、それを元にした市長の方針も「あいりん総合センターの移転」と言っているわけで、労働関係の施設は移さないという部分移転案はそこに含まれているという理解です。住宅や病院の近隣地域への移転は、耐震性の問題が深刻であることが移転の理由ですが、地域の方々や住宅等の当事者の方々が絶対に移転はしない、時間がかかっても現在の場所の建て替えを望むというのであれば(ただし、その間、5-8年の間は住宅の方々は仮移転場所に移ることになると思いますが)、それはそれで最優先すべき地域の意見として尊重します。 なお、②については、今回の会議(第2回)において、スクリーンを設置してワークショップにおける意見を映写するなど、既に対応済みです。傍聴者の方に関しては、退場者となるべく出さないようにぎりぎりまで努力しますが、あまりに不規則発言等がエスカレートした場合、他の傍聴者に対する配慮も必要なことから、残念ながら、退場していただく可能性もあります。</p>
集計		1	6	7	3	0	0	0	6	11	5	2	1	4							